外傷サーベイランス委員会







報告者　委員長　寺西　寧

1　外傷サーベイランス委員会設置までの流れ

図1

<table>
<tr><th colspan="2">外傷サーベイランス委員会設置前</th><th>設置時点</th></tr>
<tr><th>2014年</th><th>2015年</th><th>2015年
5月26日</th></tr>
<tr>
<td>11月4日
セーフコミュニティ取組宣言

11月～12月
けがや事故に関する市民意識調査
（アンケート）

11月～12月
けがや事故に関する統計データ収集</td>
<td>第1回地域診断

セーフコミュニティ課

1月～3月
郡山市のけがや事故の
実情を把握するため
調査・分析を行う</td>
<td>推進協議会
決定事項

外傷サーベイランス委員会設置

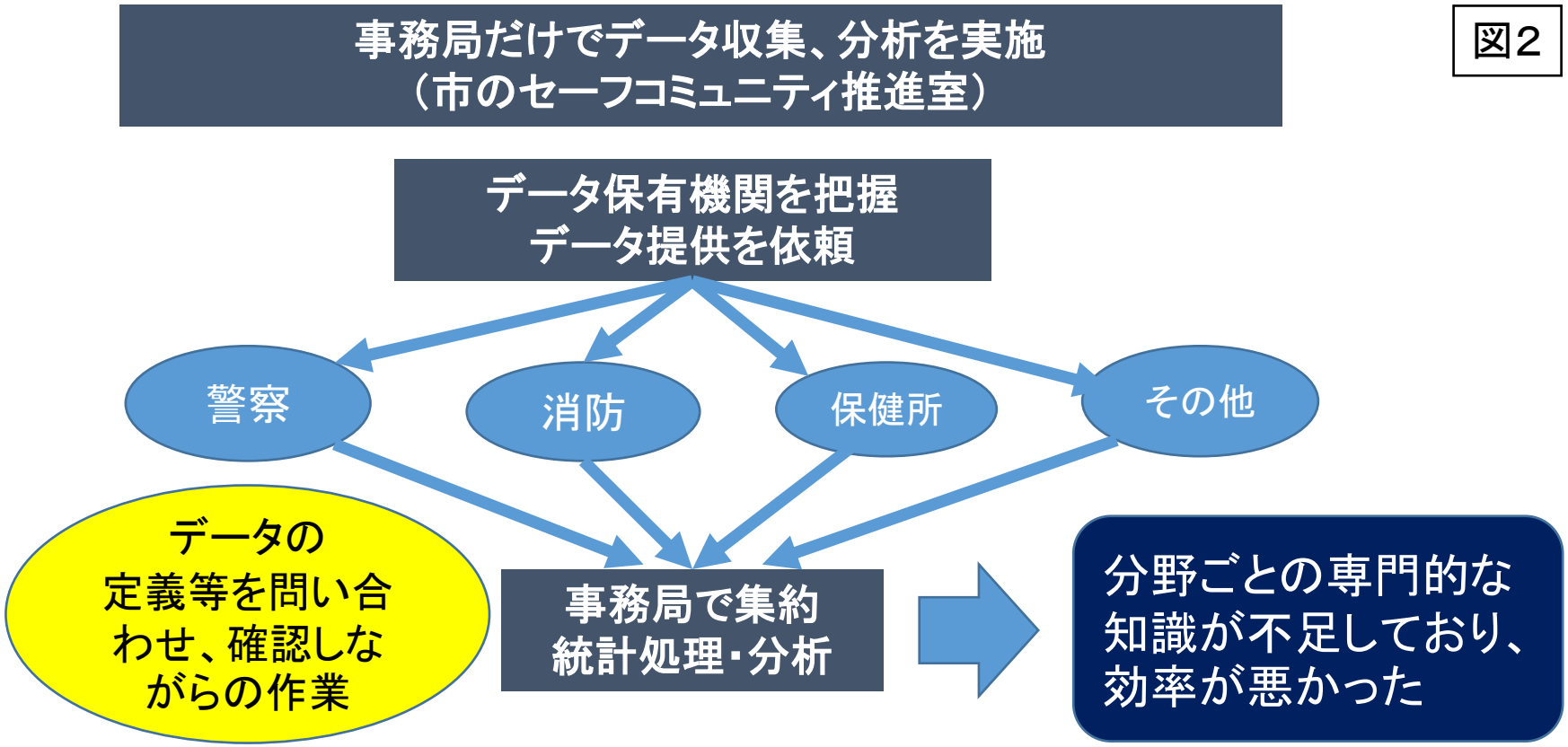
6分野に対策委員会を
設置することも決定</td>
</tr>
</table>

2　外傷サーベイランス委員会の必要性

必要性①　データ収集と分析を効率的に実施するため

2014年度に実施した「第1回郡山市のけがや事故の実情を把握する地域診断」は、
事務局（市のセーフコミュニティ推進室）が実施したが効率が悪かった。

図2



必要性②　継続したデータ収集、分析を行うため

7つの指標（設置当時の指標）

指標1. さまざまな部門・分野の人たちが連携・協力し合う仕組みを整え、まちぐるみで取り組むこと

指標2. すべての年齢・性別・環境や状況を対象として、長期的・継続的に取り組むこと

指標3. 見守りや手助けが必要な人、被害を受けやすい立場の人・環境・状況にも有効な取り組みをしていること

指標4. 根拠に基づいた取り組みをしていること

指標5. けがや事故を記録する仕組みがあること

指標6. 取組及び効果・影響を評価するための評価基準があること

指標7. 国内外のセーフコミュニティ間の情報交換や交流の場に継続的に参加していること

指標4から6を継続的かつ効率的に実施するためには、事務局だけでは不足

外傷サーベイランス委員会設置
セーフコミュニティ推進協議会決定
（2015年5月）

３　外傷サーベイランス委員会の役割

役割１　けがや事故の**データ収集及び分析**（**指標４、指標５**）

〇発生件数等のデータ収集と継続可能な体制整備
〇全国、福島県、郡山市の比較
〇年代間での比較、地域間での比較　等

役割２　セーフコミュニティ**活動の検証**（**指標４、指標６**）

〇活動の根拠となるデータは妥当か？
〇活動の効果測定方法は妥当か？
〇指標の設定は妥当か？　等

役割３　データに基づくセーフコミュニティ**活動への助言**
（**指標４、指標６**）

〇推進協議会、対策委員会に助言を行う。

３　外傷サーベイランス委員会の役割

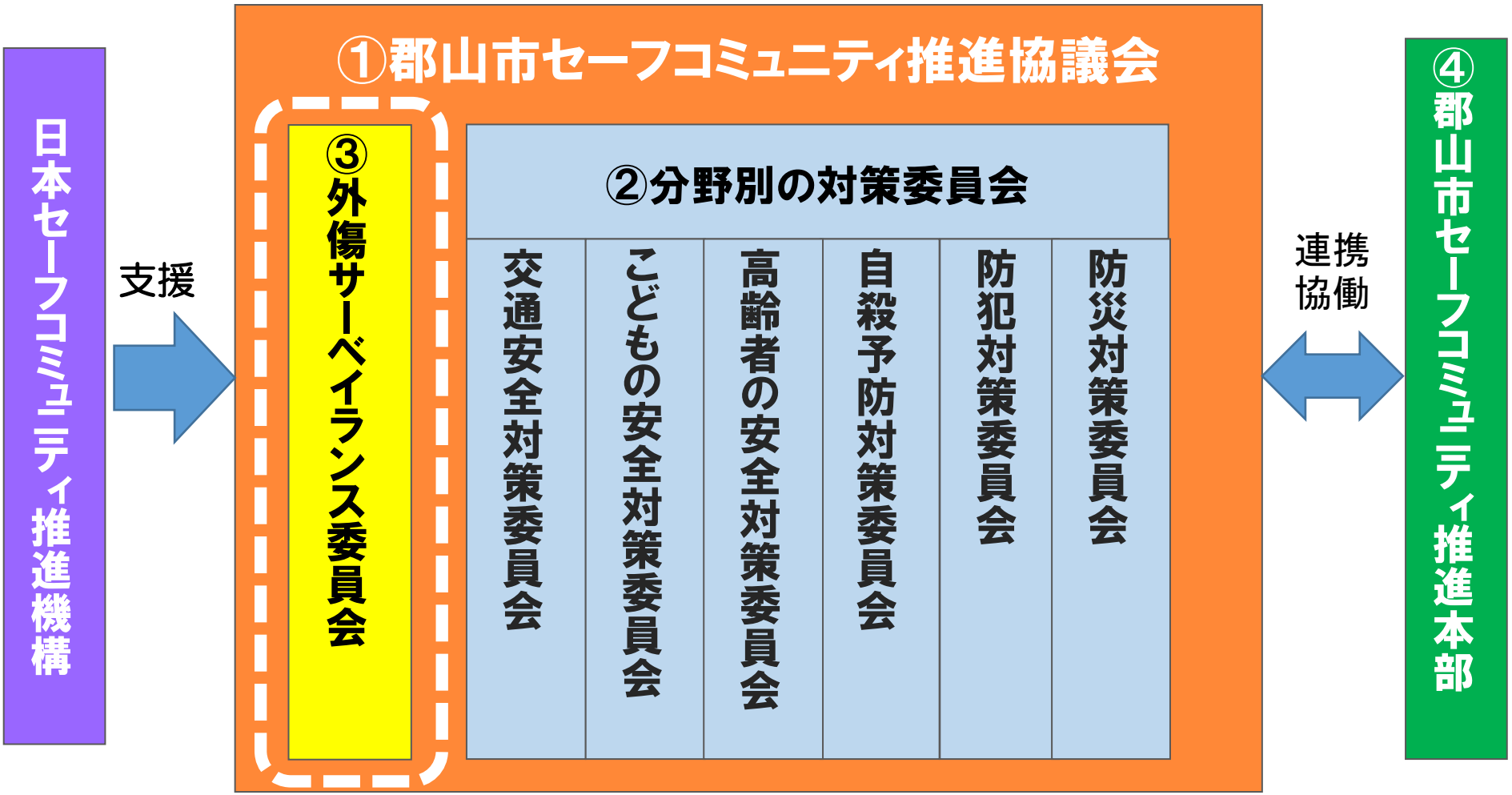
表１

2014年	11/4　SC取組宣言	**第１回地域診断**
2015年	5/26　SC推進協議会設立 **外傷サーベイランス委員会設置** 7/8　分野別対策委員会設置	
2016年	11/7～9　　事前指導	**第２回地域診断**
2017年	11/8～10　現地審査	
2018年	**2/2　国際認証取得**	**第３回地域診断**
2019年		
2020年	※新型コロナウイルス感染拡大	**第４回地域診断**
2021年	11/15～16　事前指導	
2022年	11/8～10　　現地審査	**第５回地域診断**
2023年	**2/4　国際認証再取得**	
2024年		**第６回地域診断**
2025年		
2026年	11/12～13　事前指導	**第７回地域診断**

効率化

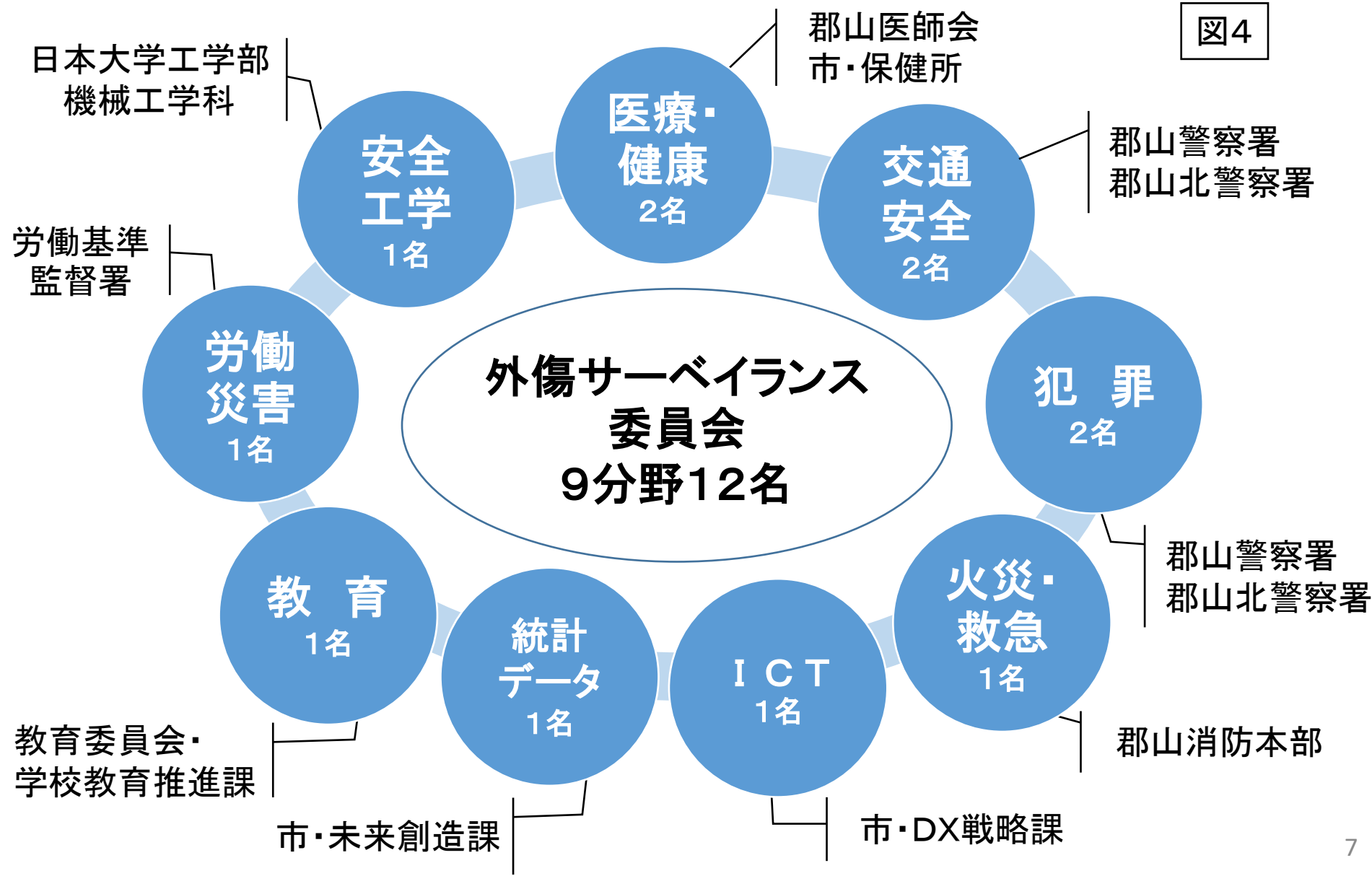
4　外傷サーベイランス委員会の構成

図3



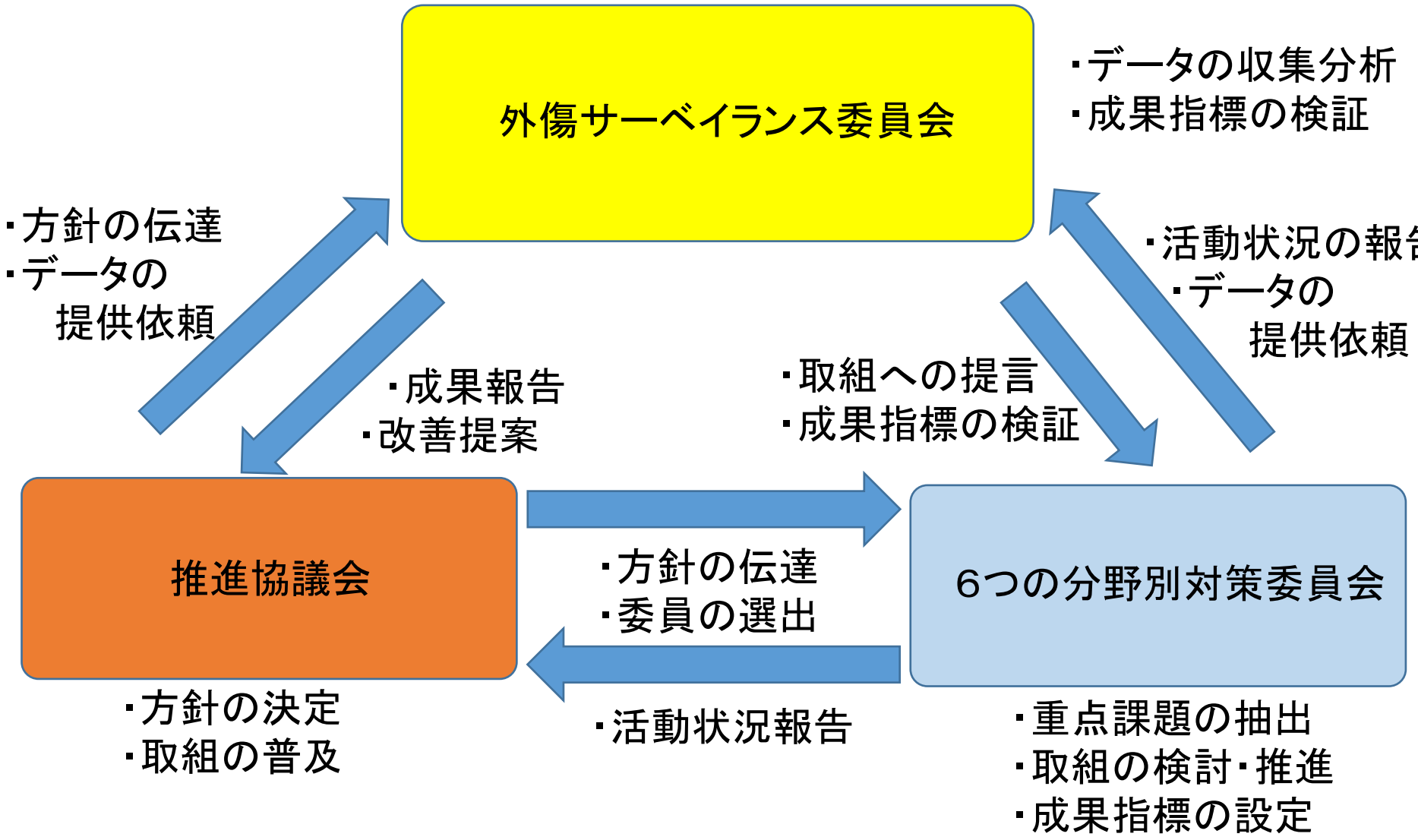
4　外傷サーベイランス委員会の構成

図4



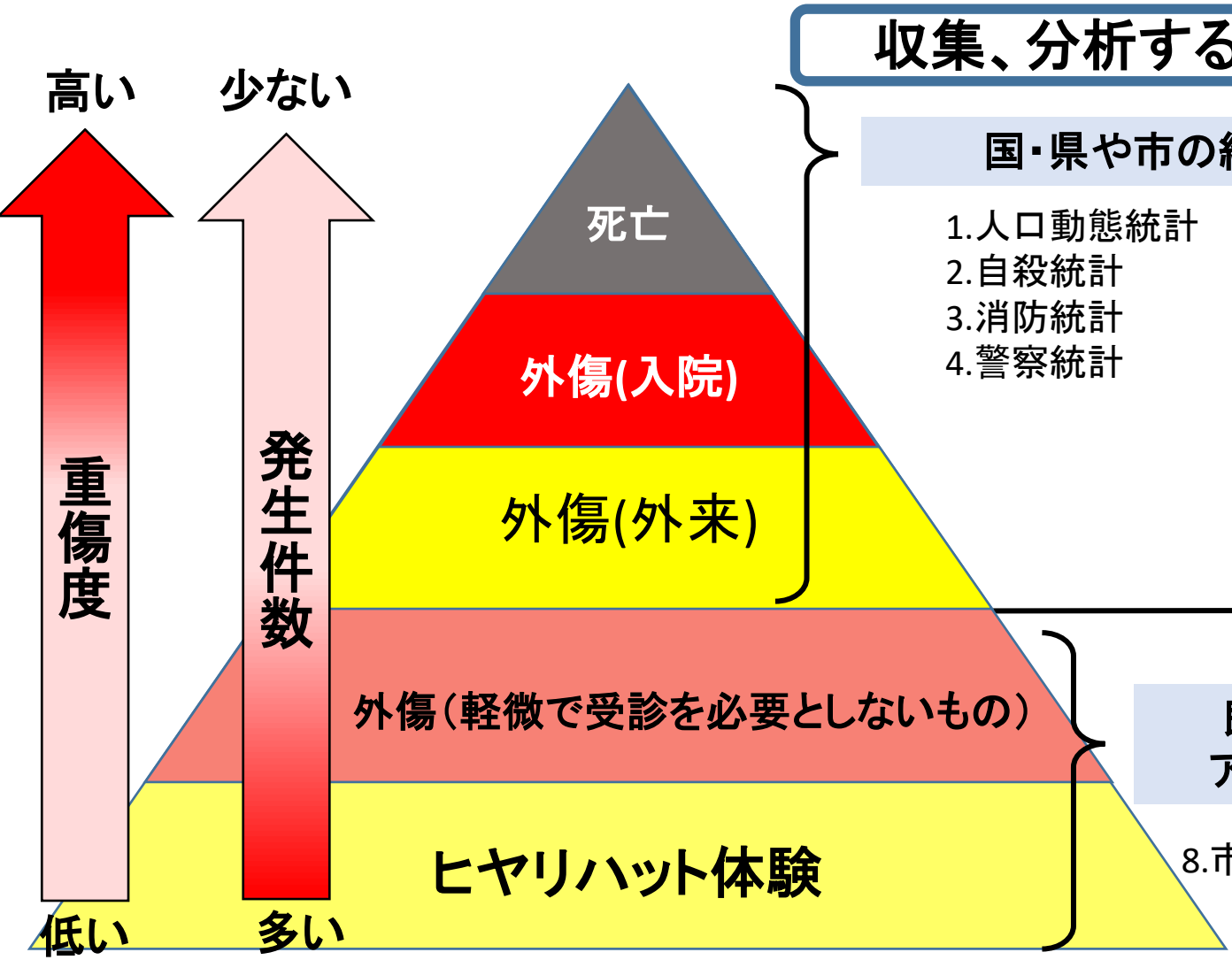
全体の役割相関図

図5


外傷サーベイランス委員会
・データの収集分析
・成果指標の検証
・方針の伝達
・データの
提供依頼
・成果報告
・改善提案
・活動状況の報告
・データの
提供依頼
・取組への提言
・成果指標の検証
推進協議会
・方針の伝達
・委員の選出
6つの分野別対策委員会
・方針の決定
・取組の普及
・活動状況報告
・重点課題の抽出
・取組の検討・推進
・成果指標の設定

5　データ収集について

けがや事故の全体像を把握



収集、分析するデータ

図6

国・県や市の統計データで分析

1.人口動態統計
2.自殺統計
3.消防統計
4.警察統計
5.交通白書
6.地域安全白書
7.救急搬送データ
等

既存のデータがなく アンケートにより調査

8.市民意識調査（アンケート）

対策委員会で使用している主な外傷データとその更新頻度

表2

更新頻度	統計等の名称	交通安全	こどもの安全	高齢者の安全	自殺予防	防犯	防災
毎年	人口動態統計	●		●	●		
	消防統計				●	●	●
	警察統計	●	●			●	
	救急搬送データ	●	●	●	●	●	●
隔年	市民意識調査（アンケート）	●	●	●	●	●	●

対策委員会で使用している外傷以外のデータとその更新頻度

表3

更新頻度	統計等の名称	交通安全	こどもの安全	高齢者の安全	自殺予防	防犯	防災
毎月	違法客引き、スカウト調査					●	
毎年	高齢者支援事業実施状況			●			
	高齢者虐待等相談件数			●			
	児童虐待相談対応件数		●				
	配偶者等暴力相談件数					●	

６　認証後の取組

●6つの分野別対策委員会

検討状況の確認、必要としているデータの確認、活動内容の確認、活動状況の分析、取組の評価方法の確認　等

●地域診断

実施方法について助言、アンケート調査内容の検討、地域診断の分析　等

●セーフコミュニティ賞

賞の創設に係る助言、審査　等

●その他

現地審査説明資料の作成
推進協議会の推進体制、新たな課題の検討
郡山市と類似自治体のデータ比較

6　認証後の取組

①　地域診断に向けて実施する市民アンケートの見直し

表4

	2014年（初回）	2024年
対　　象	●個人アンケート　8，800人 （回収率　30.1%） ●世帯アンケート　4，000世帯 （回収率　36.6%）	●個人アンケート　4，000人 （回収率　41.2%） ※約2割がインターネットによる回答
質問内容	**●個人アンケート　16問** 基本属性、地域への愛着、日常の外出手段、不安なこと、健康状況など **●世帯アンケート　18問** 基本属性、地域活動への参加状況、家庭のけがの状況、災害対策など	**●個人アンケート　43問** 基本属性、家庭でのけがの状況、交通・こども・高齢者の安全、自殺、防犯、防災に関すること

改善点

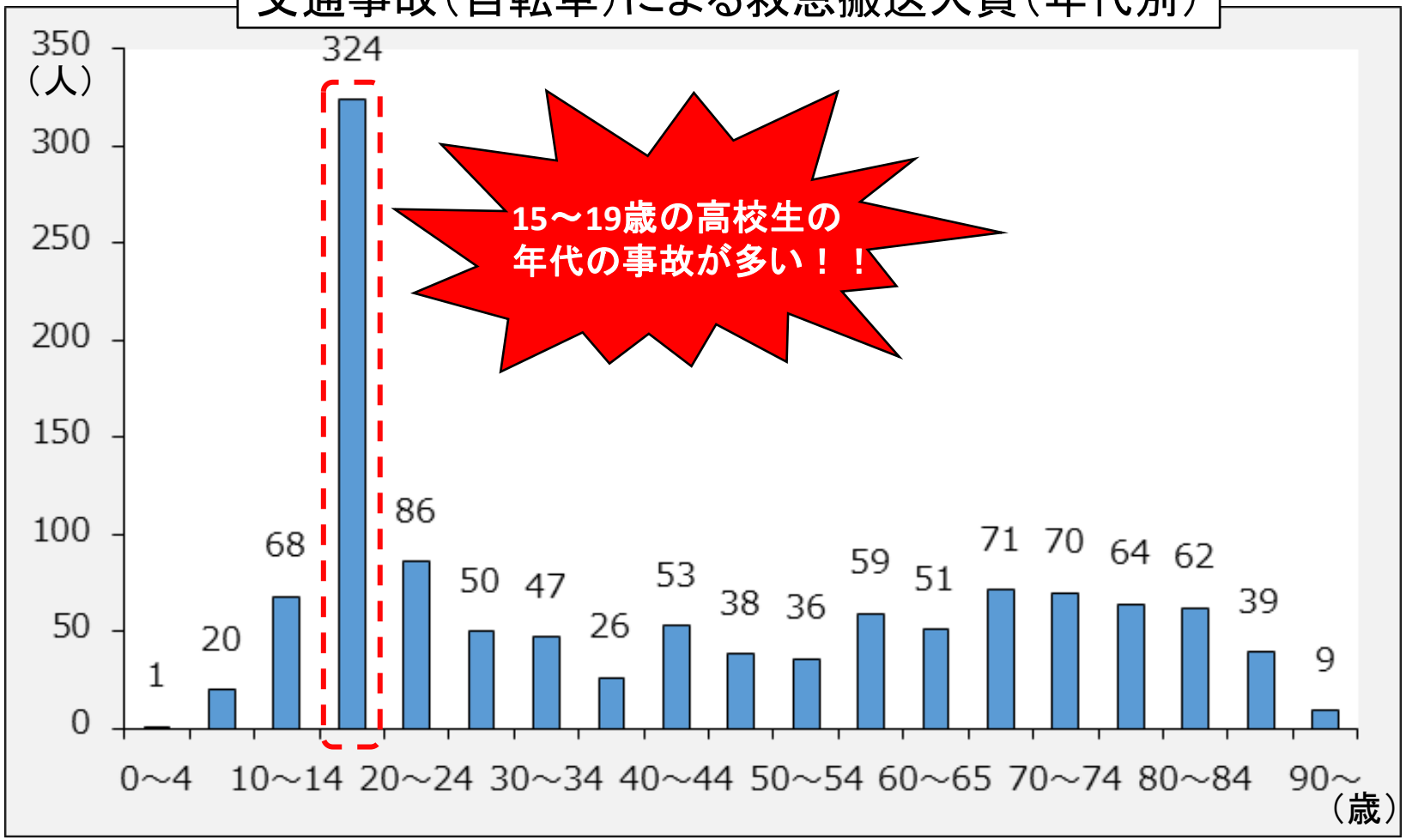
- 対象を個人に限定
- 各対策委員会が取り組む重点課題と結びつくように質問を整理
- 回答方法としてインターネットによる回答を導入

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

※2018～2022年の過去5年間累計

図7

交通事故（自転車）による救急搬送人員（年代別）



郡山地方広域消防組合報道資料より

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

【交通安全対策委員会への提言】

表5

長期成果指標	2021年	2022年	2023年	2024年
高校生の自転車事故件数	24件	39件	36件	39件

提言

●自転車の事故は高校生が多い。高校生の自転車事故を減らすにはどうするか、検討が必要。 図7

●自転車事故を減らすには、意識の面を変えなくてはいけない。ヘルメット着用も、購入補助金等があればかぶろうとする人が増えると思うので検討が必要。

【交通安全対策委員会の対応】

対応

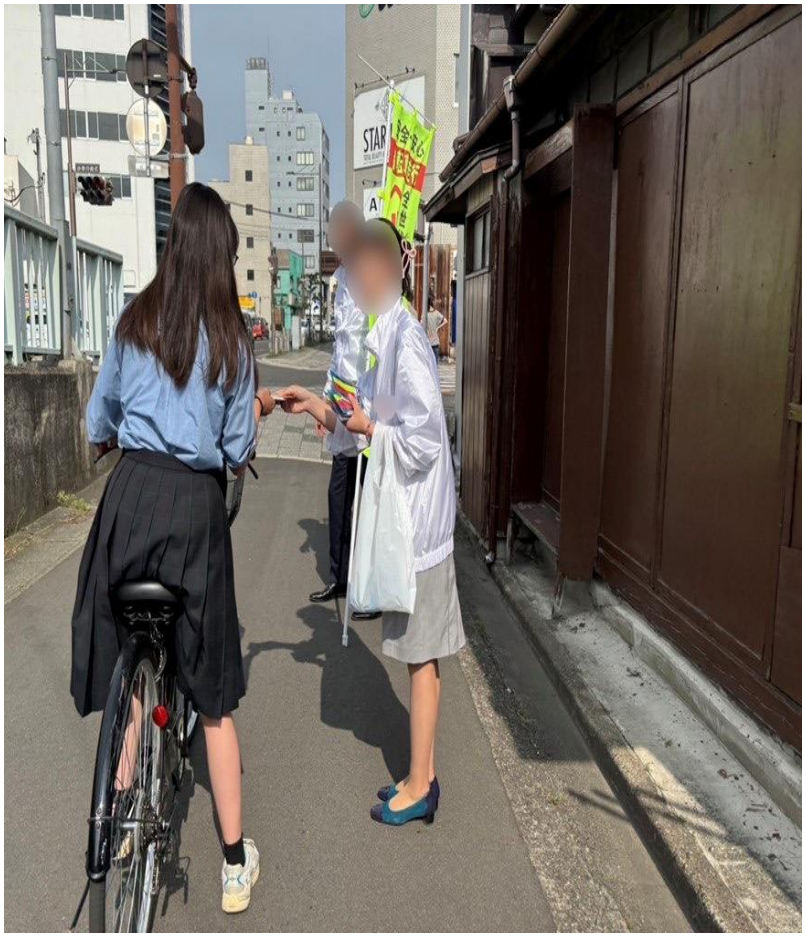
●自転車通学の高校生を対象とした街頭啓発を実施し、自転車の安全運転の指導や啓発チラシを配布。2024年には、交通事故多発地点マップをパソコンやスマートフォン等から確認出来るように改善。

●高校14校へアンケート調査を実施。ヘルメットを着用しない理由を確認した。

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

【交通安全対策委員会の対応】

図8





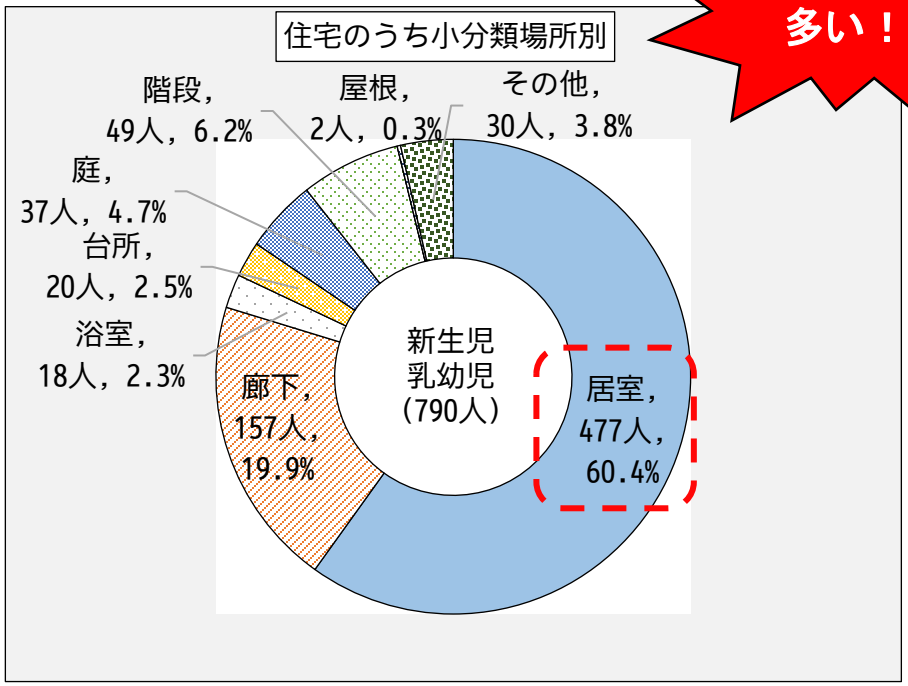
② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

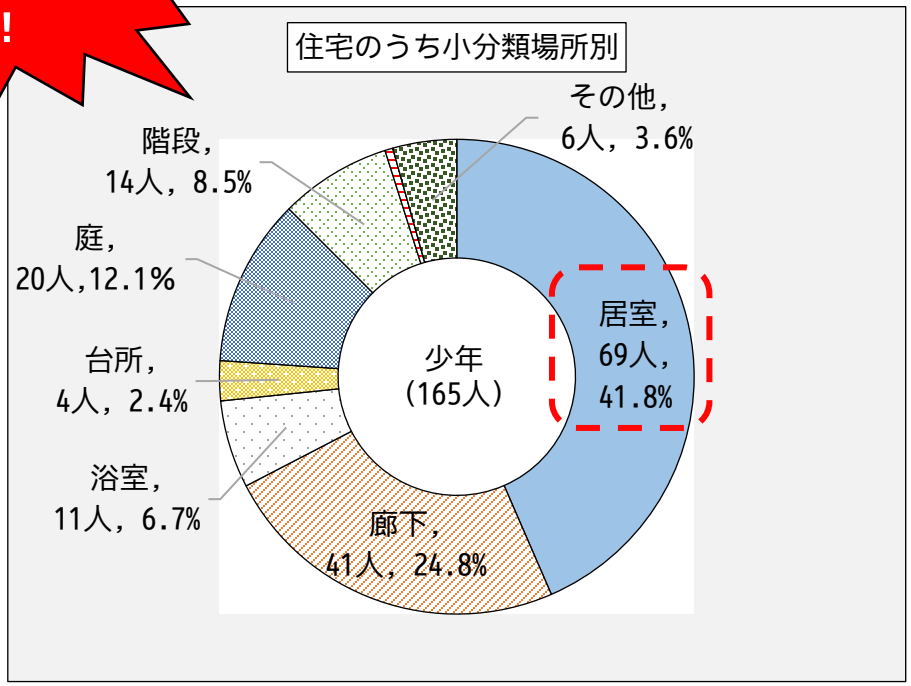
住宅から一般負傷を要因に救急搬送された こども（新生児～少年）のけがや事故の場所

図9

※2014～2023年の累計

「居室」での けがや事故が 多い！！

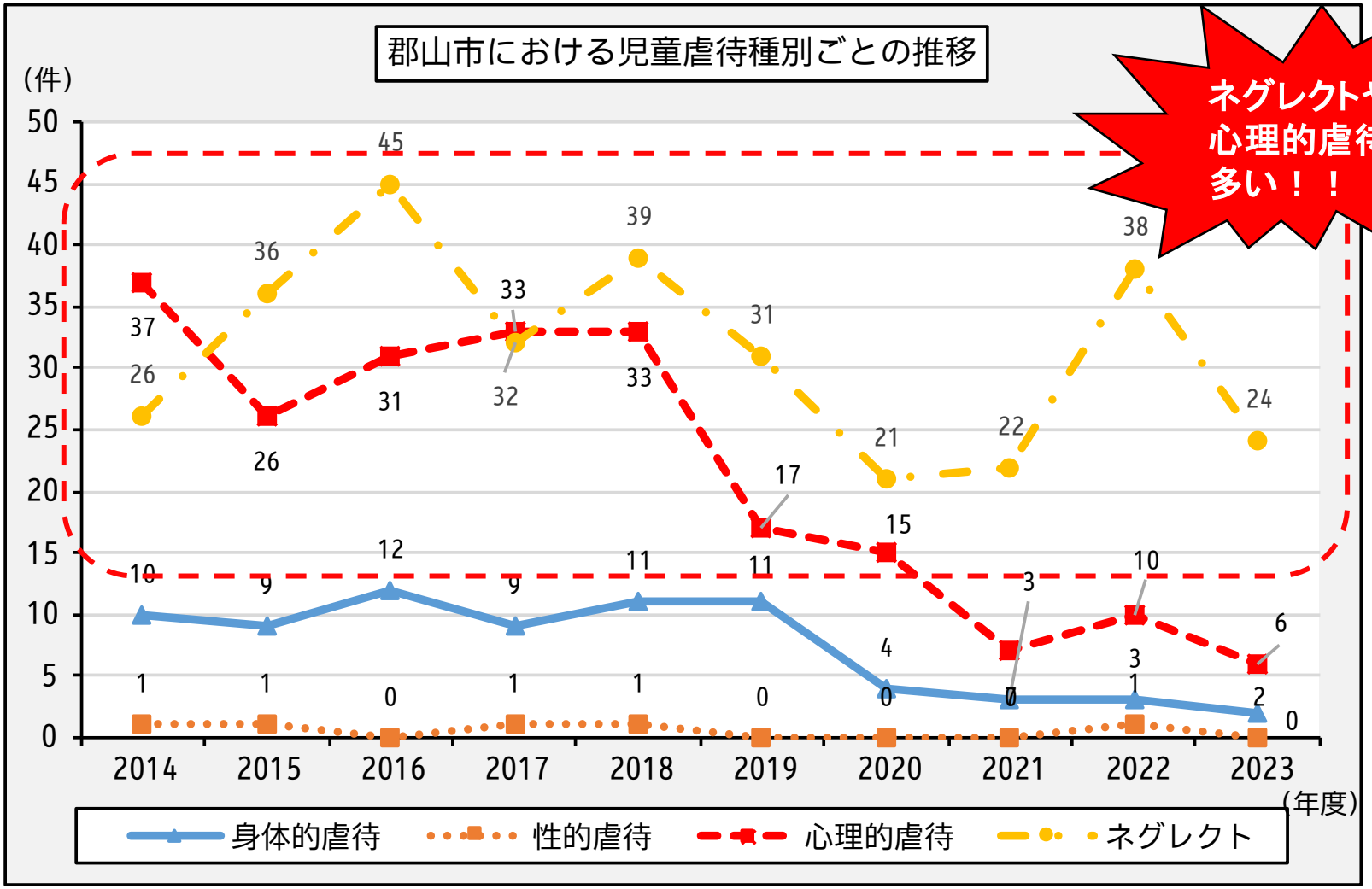




「救急搬送データ（詳細版）」（郡山地方広域消防組合）を加工して作成

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

図10



「相談等の取扱件数推移（相談実件数）」（郡山市こども家庭課）を加工して作成

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

【こどもの安全対策委員会への提言】

提言

●住宅から一般負傷を要因に緊急搬送されたこどものけがは、居室が多いので事故予防につながる啓発が必要。 図9

●こどもの虐待については、統計や対策は今後も継続するとともに、こどもに対する教育も長期的な視点で検討が必要。 図10

【こどもの安全対策委員会の対応】

対応

年代に応じたこどもの事故予防チェックシートを保護者に配布。
こどもの虐待に関する出前講座、講演会やキャンペーンを実施。



年代に応じた子どもの事故予防チェックシート





児童虐待防止啓発キャンペーンの実施

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

年齢層別死亡要因順位（2014～2022年累計　※病気等を除く）

表6

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
10-19歳	自殺 18人	交通事故 5人			
20-29歳	自殺 53人	交通事故 7人			
30-39歳	自殺 73人	交通事故 4人			
40-49歳	自殺 92人	交通事故 16人	転倒・転落 4人		
50-59歳	自殺		転落 9人 9人	煙・火・火災 7人	
60-69歳	自殺		19人	転倒・転落 17人 溺死・溺水 17人	煙・火・火災 9人
70-79歳	自殺 6	窒息 6人	30人 溺死・溺水 30人	交通事故 22人	煙・火・火災 8人
80-89歳	窒息 101人	転倒・転落 76人	溺死・溺水 57人	自殺 45人	交通事故 17人
90歳以上	転倒・転落 58人 窒息 58人	溺死・溺水 11人	自殺 7人	煙・火・火災 4人	
全年齢	自殺 512人	窒息 231人	転倒・転落 197人	溺死・溺水 127人	交通事故 110人

80代以上では
「窒息」や「転倒・転落」
による死亡者が多い！！

※2014～2022年の死者数を合計しています。

人口動態統計2014～2022年（死因帳票）より作成

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

【高齢者の安全対策委員会への提言】

提言

●80歳以上の死亡原因として、「窒息」、「転倒・転落」が多いことから、高齢者に対し注意喚起することが必要。 表6

●地域のいきいき百歳体操や介護予防教室に参加することで、「窒息」、「転倒・転落」の予防につながることもあると思うので、積極的に参加していただくよう啓発が必要。

【高齢者の安全対策委員会の対応】

対応

●住環境での転倒事例や予防チェックシート、窒息への対策、いきいき百歳体操の紹介など高齢者の安全啓発のためのチラシを作成し、周知・啓発を実施。





図11

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

年齢層別死亡要因順位（2014～2022年累計　※病気等を除く）

表7

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
10-19歳	自殺 18人	交通事故 5人			
20-29歳	自殺 53人	交通事故 7			
30-39歳	自殺 73人				
40-49歳	自殺 92人	交通			
50-59歳	自殺 91人	交通事故 17人	窒息 9人	煙・火・火災 7人	
60-69歳	自殺 69人	交通事故 20人	窒息 19人	転倒・転落 17人 溺死・溺水 17人	煙・火・火災 9人
70-79歳	自殺 64人	窒息 36人	転倒・転落 30人 溺死・溺水 30人	交通事故 22人	煙・火・火災 8人
80-89歳	窒息 101人	転倒・転落 76人	溺死・溺水 57人	自殺 45人	交通事故 17人
90歳以上	転倒・転落 58人 窒息 58人	溺死・溺水 11人	自殺 7人	煙・火・火災 4人	
全年齢	自殺 512人	窒息 231人	転倒・転落 197人	溺死・溺水 127人	交通事故 110人

10代から70代までは「自殺」による死亡者が多い！！

※2014～2022年の死者数を合計しています。

人口動態統計2014～2022年（死因帳票）より作成

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

【自殺予防対策委員会への提言】

提言

●病気等を除く死亡原因をみると、10歳代から70歳代までは自殺が最も多い。今後も自殺対策が重要。 表7

●自殺要因としては、職場関係（人間関係）にあると思われるので、悩んでいる人に相談窓口等の情報をどのように届けられるか検討が必要。

【自殺予防対策委員会の対応】

対応

●自殺や自殺関連事象に関する正しい知識を普及したり、自殺の危険を示すサインに気づき、声をかけ、話を聞き、必要に応じて専門家につなぎ、見守る、ゲートキーパーの役割を担う人材を養成する研修会の実施。

●若年者向けワークブックを市ウェブサイト、いのち支える自殺対策推進センターのホームページに掲載。市内の中学校等に配布。

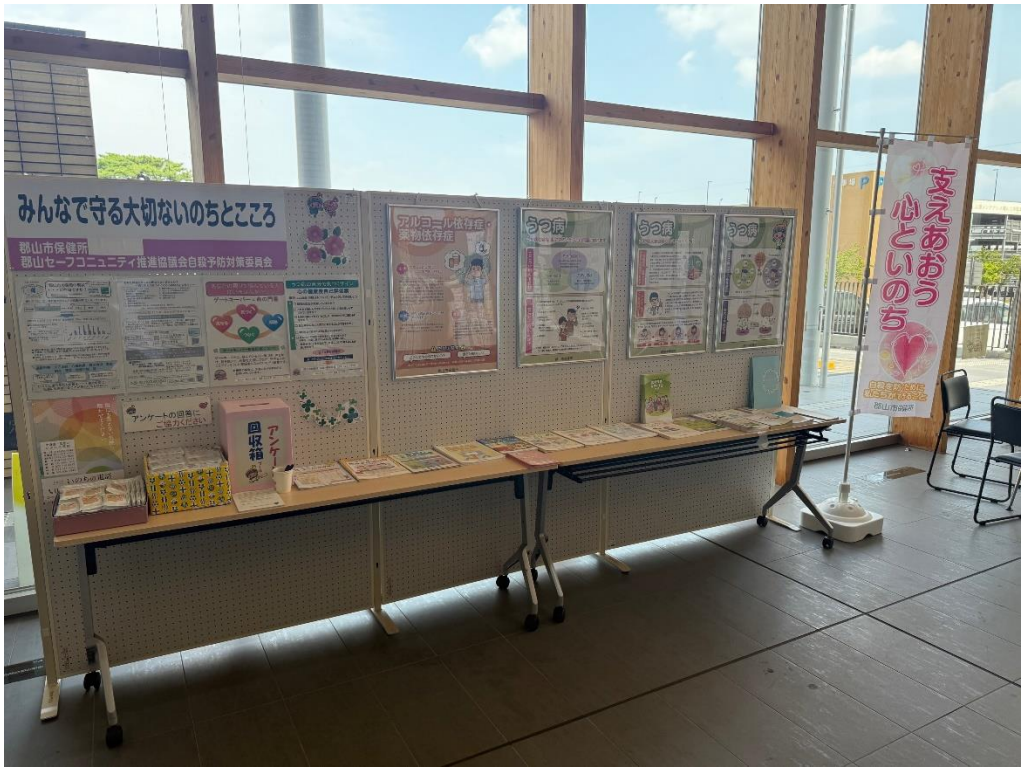
●福島県自殺対策強化月間に合わせ、自殺予防パネル展の実施。日本大学工学部、郡山女子大学、保健所で常設展示を実施。

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

【自殺予防対策委員会の対応】



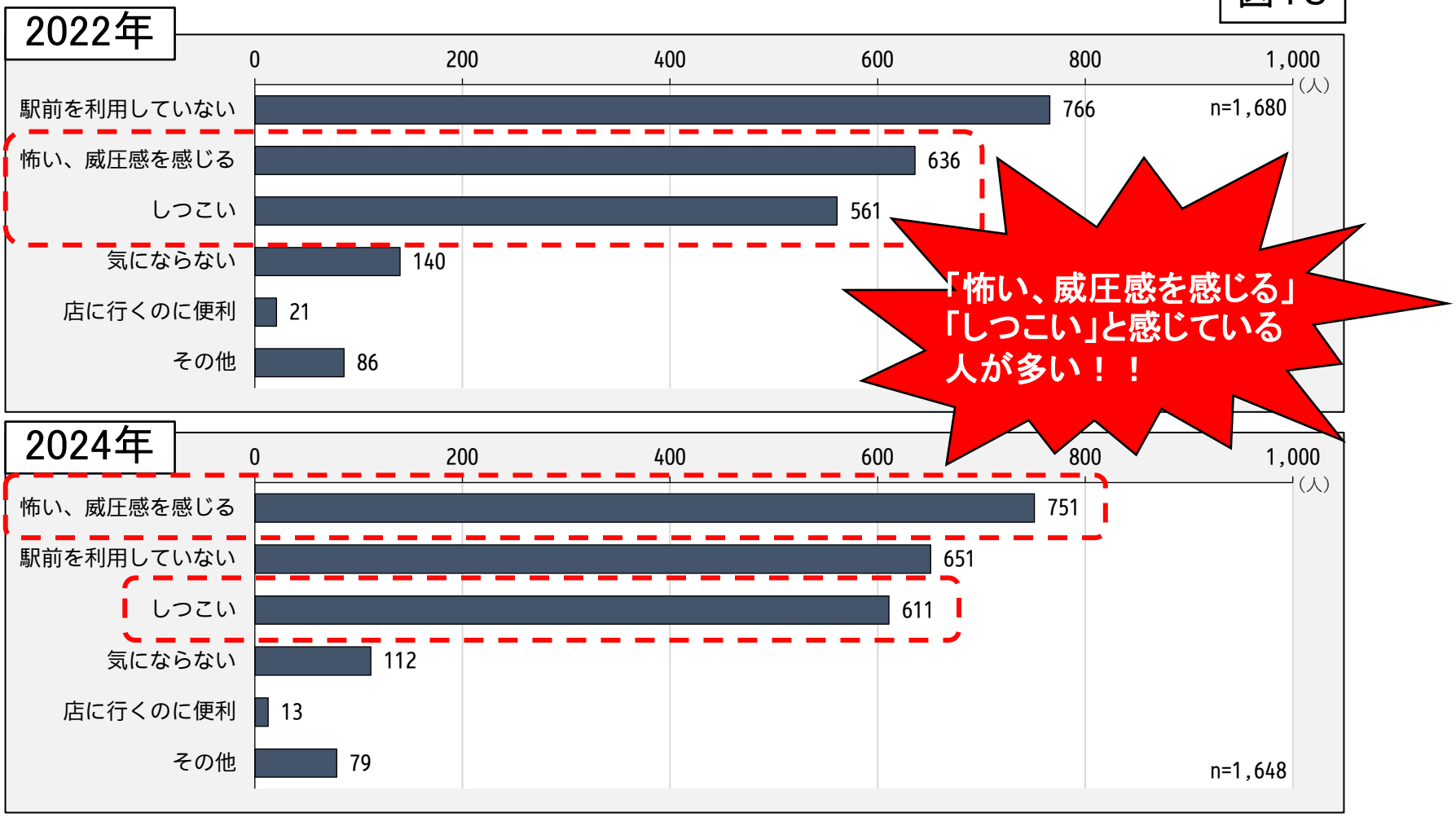
図12



② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

郡山駅前の違法客引きの印象

図13

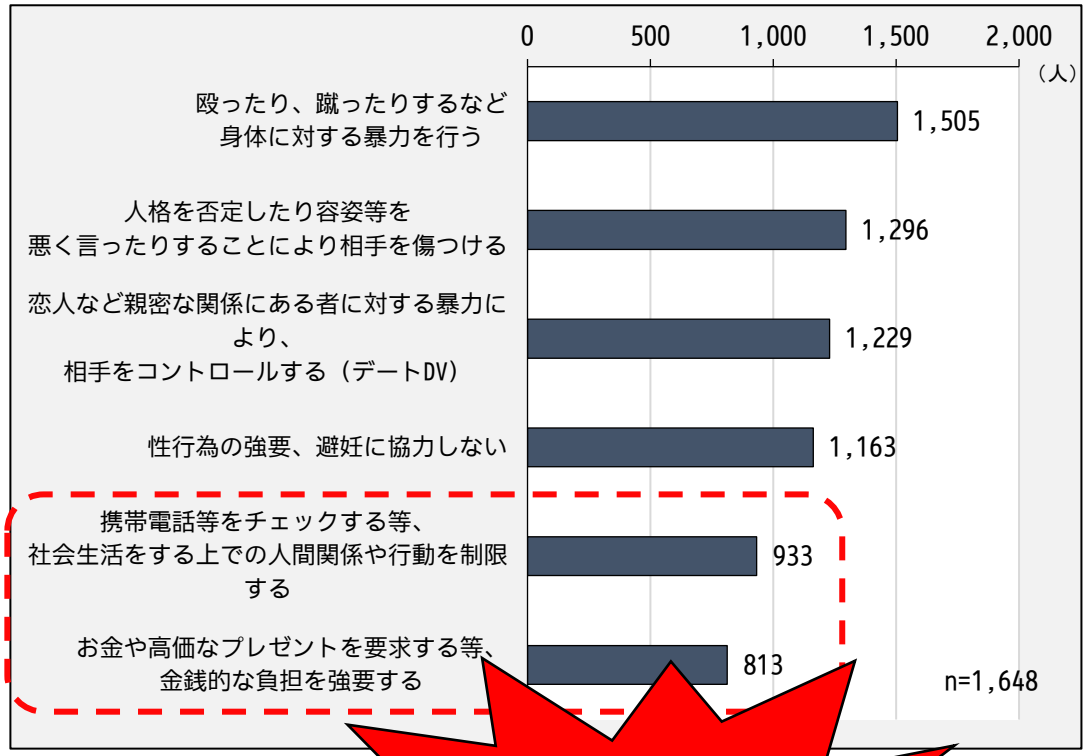


第5回・第6回郡山市セーフコミュニティ市民意識調査より

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

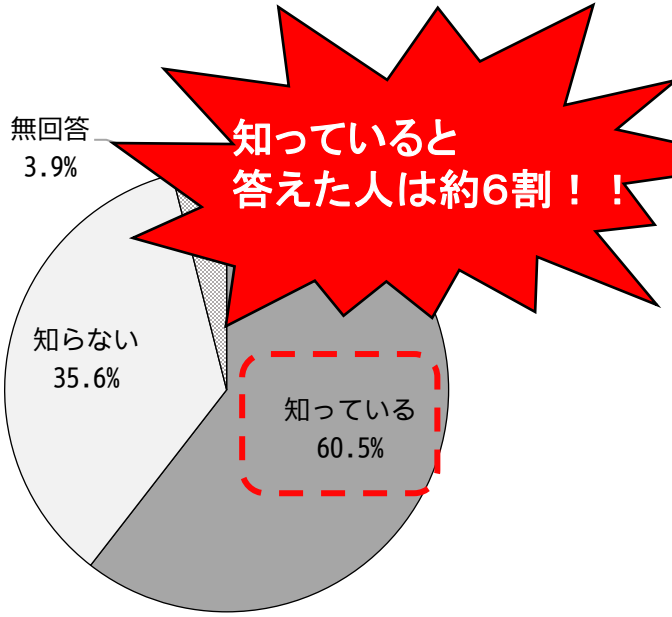
図14

どのような行為がDV（ドメスティックバイオレンス）にあたるかについての認知度



人間関係の制限や
金銭的負担の強要がDV
に当たると認識している人が
少ない！！

DVの相談窓口の認知度



知っていると
答えた人は約6割！！

n=1,648

第6回郡山市セーフコミュニティ市民意識調査より

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

【防犯対策委員会への提言】

提言

●郡山駅前の違法客引き等への印象では、「怖い、威圧感を感じる」や「しつこい」は前回の調査時より、増えているので、今後も対策が必要。 図13

●DVは身体的暴力の他にも、精神的暴力や経済的暴力等があるので、DVや相談窓口の周知が必要。 図14

【防犯対策委員会の対応】

対応

●郡山駅前で違法客引きを対象としたパトロールを実施。市民に対して違法客引きを利用しないよう啓発を実施。

●イベントでのDVについてのパネル展示や啓発チラシの配布。公民館等にカード型啓発品を設置。人権啓発チラシにDV防止に関する内容を掲載し、啓発を実施。



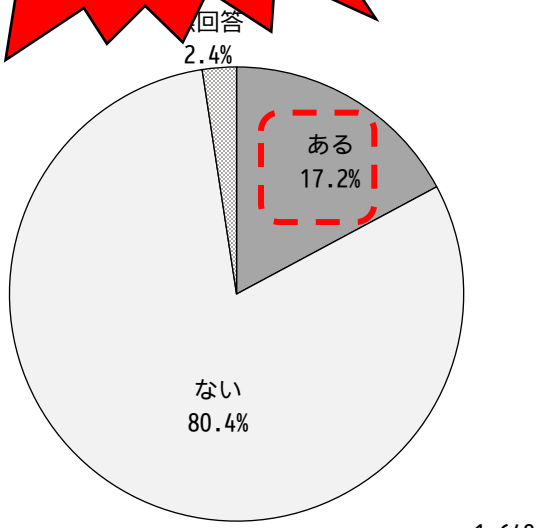
違法客引き防止パトロール

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

図15

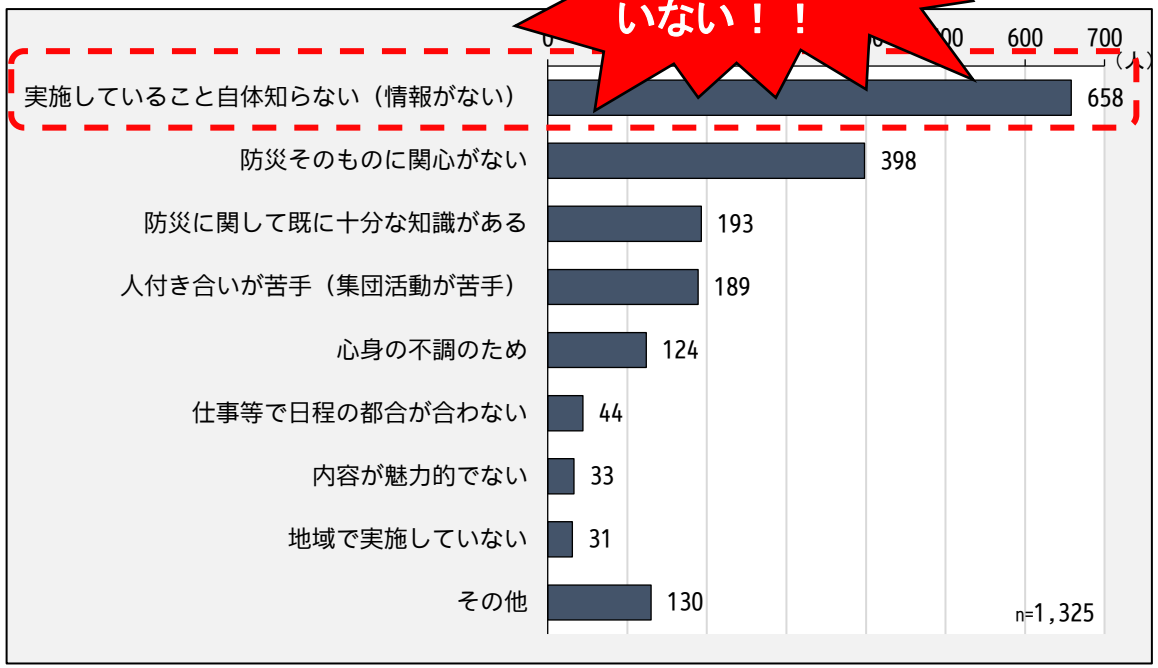
地域の防災活動への参加経験

防災活動への参加経験がある人が少ない！！



地域の防災活動へ参加できない理由

情報が十分にいき届いていない！！



第6回郡山市セーフコミュニティ市民意識調査より

② 地域診断に基づく対策委員会への提言とその対応

表8

【防災安全対策委員会への提言】

活動指標	2021年	2022年	2023年	2024年
防災学習の実施回数	29回	29回	34回	33回

提言

●防災活動への参加経験が少ないことから、防災教育を引き続き継続していくことが必要。 図15

●防災活動に参加できない理由として、情報が十分にいき届いていないと思われるので、周知が必要。

【防犯対策委員会の対応】

対応

●自主防災組織が実施する防災訓練等への協力や防災に関する講演会や学習会を開催。

●市で発行している広報誌や市ウェブサイトを通じて広く情報を発信。また、X（旧ツイッター）などのSNSを活用しての情報発信。



市民向け防災講演会の開催

③　セーフコミュニティ賞の審査



子どもの見守り活動
<片平交通安全母の会>



地域の安全安心を見守る活動
<郡山市消防団日和田地区隊>



登下校時の子どもの安全活動
<防犯ボランティア「百合ヶ丘だいすき守る会」>



高齢者や危険箇所等を見守る活動
<三穂田地区もっとつながっぱい大作戦（第２層協議体）>

7　成果と課題

成果

①市民アンケートの見直しによるデータ収集・分析の効率化

②分野別対策委員会への提言を通じた取組の拡充

課題

更なる問題の見える化と対策の提言に向けたデータ収集・分析の新たな方法等の検討

セーフコミュニティ活動を通じて安全・安心に暮らすことができるまちづくりを目指す

ご清聴ありがとうございます。



郡山市
イメージキャラクター
がくとくん

イメージキャラクター
がくとくんの妹
おんぷちゃん

東北のウィーン
楽都郡山

外傷サーベイランス委員会